

| No. | 実施大学 | 授業科目名 | 担当教員 | 単位数 | 開講区分 | 曜日 | 予定回数 | 時間 | 実施場所 | 定員 |
|-----|------|----------|------------------|-----|------|----|------|-------------|--------------------|----|
| 119 | 拓殖大学 | タイの政治と経済 | 甲斐 信好 国際学部 教授 | 2 | 後期 | 木 | 13 | 13:50～15:35 | 拓殖大学 八王子国際キャンパス | 5 |

【授業の目的及び到達目標】

目的は地域研究の一環としてタイという国を主として政治面から理解することです。

政治経済を理解するために「国王」「仏教」という2つのキーワードからタイの歴史を俯瞰します。

地域研究とは①地域理解②地域言語③地域体験の総合だと考えます。レクチャーを通してタイを理解し、地域言語としてサバイバルタイ語を、地域の体験はタイ映画やビデオを紹介し、以上の3つを通して「タイを好きになること」：「タイに行ったことがない人はタイを好きになること。タイに行ったことがある人はますます好きになること」を到達目標にします。

【授業内容】

1. オリエンテーションとタイ国概況

講師の自己紹介、授業の進め方、評価基準、全体像、成績評価の基準など。

オリエンテーションとしてタイという国の一般的な概況についてもお話しします。

2. いま、タイで何が起きているのか

タイを理解するキーワード「仏教」そして「国王」について紹介します。

講師はタイ大好き人間です。いま、タイで何が起きているのか、最新情報もお伝えしたいと思います。

3. タイの夜明け—スコータイ朝そして「国王」

13世紀にはじめてタイの王朝として成立したスコータイ朝を顧みながら、タイを理解するキーワード「国王」についてその根源を述べます。

4. タイ仏教と政治

「日本とタイは同じ仏教国」—それは半分真実で、半分はとんでもない勘違いです。タイを理解するキーワード「仏教」について、講師のタイ体験からも紹介いたします。

5. アユタヤ朝—タイのかたち

400年以上続いたアユタヤ朝は商業国家であり、また今日に続く「外国人の使い方がうまい」タイの力を示しています。タイの多様性についても考えます。

6. アユタヤの滅亡、トンブリから現王朝へ

アユタヤ朝はビルマに敗れ、復興したタクシン王一代限りのトンブリ朝を経て、都はバンコクへ。激動の時代のタイ政治と現王朝の誕生について紹介します。

7. なぜタイは独立を保てたか

近代化に邁進したモンクット王、チュラロンコーン王の親子を中心にタイがどのように生き延びてきたか顧みます。「王様と私」(アンナと王様)というミュージカル(映画)はなぜタイでは忌避されるのでしょうか？

8. 王権の衰退と立憲革命

1932年の立憲革命で、タイは絶対王制から立憲君主国になったとされます。それは本当なのか？何が不十分だったのか？について議論を行いたいと思います。

9. 第2次世界大戦を巡るタイと日本

欧米列強と日本など枢軸国の間で、タイがどのような対応を見せたか。今日に続く「外交上手」の核心に迫ります。

タイではなぜクーデターが多発するのか、そしてその特徴は何かについても問います。

10. 戦後：開発の時代

タイに「開発の時代」がやってきました。権威主義開発体制と呼ばれる政治体制についてサリットを中心に、タイの経済発展を政治面から分析します。「タイ式民主主義」の特徴と原因について紹介します。

11. タイの経済発展と民主化

スチンダ首相の就任と辞任を巡る混乱とともに、タイには民主化の季節が訪れます。民主化の担い手である「新中間層」とは何だったか、彼らが中心となった1997年憲法について、その両面性を検証します。

12. タクシンという男：21世紀のタイ

タイのデモクラシーを(良きにせよ悪しきにせよ)大きく変えたのが、タクシンという政治家でした。CEO型首相と言われた彼の功罪について問います。

13. タイはどこへ行くのか

タクシンなきタクシン政治について触れます。2020年からの学生運動についても考えます。これまで学んできたことをまとめ、タイがどこに向かうのか、皆さんと議論を行いたいと思います。

※拓殖大学の授業時間は、1時限105分となっています。

【授業の方法】

レクチャーは半分の時間までとします。地域研究は「知識」「言語」「体験」の三本柱からなっています。レクチャーを通して「知識」を得るのはもちろんですが、「言語」(サバイバルタイ語)「体験」(タイ映画の紹介)も伝えていきたいと考えます。

【予習・復習】

予習は、前回の課題と内容を見直しておいてください(30分程度)。その日の授業内容の復習をお願いします。時間は60分程度を想定しています。

【成績評価方法】

最終試験(持ち込み不可)で60%、毎回の出席と課題で40%と考えています。質問等には教室の他、メール・BB等も使ってフィードバックいたします。

【参考書、教材等】

【教科書】柿崎一郎『物語 タイの歴史』中公新書、2007年

【参考書】赤木 攻『タイのかたち』めこん、2019年 その他、授業の中で指示します。

※ この授業は、9/21(木)が初回です。